

- 
- 議 題 平成20年度 第2回 学校協議会
- 開催日時 平成20年12月13日
- 開催場所 本校 応接室
- 出席者 [委員] 入江さん 柿原さん 加治佐さん 芝井さん  
竹川さん 立石さん 宮坂さん
- [学校] 松本(校長) 秋元(教頭) 小野(事務長) 山本(首席・学習指導室長)  
堀(指導教諭・学校運営室長) 奥谷(生活指導室長) 浅田(学年室長)
- [オブザーバー] 長井さん (高槻北高校教頭)

---

■学校長挨拶

本日はお忙しいところ本当にありがとうございます。昨日、オーストラリア修学旅行から帰阪。現在の1年生が7クラスで来年度も7クラスかと思っていたが、学校設備面で教室の不足等の問題があり、来年度は6クラス募集になった。また、現在まで国立大学に4名が合格し、3年生(4期生)も進路実現に向け頑張っている。

本日は、槻の木高校の今後ということで、特に地域連携という観点からのご提言を、是非、お願いしたい。

---

■協議会会長挨拶

竹川さん 息子が3年でお世話になっている。下の子が私学に行っており、講習等をやっているが、有償。それに比べると槻の木は手厚い講習が無償でありがたい。また、大阪の問題として、公立も私立も学校に対する府の援助が厳しい状況。我々保護者は教育環境の整備に力をいれなければならないと考えている。本日は、前向きな議論を是非にお願いしたい。

---

■議事内容

司会(秋元) これまで、学校協議会において、「家庭学習の定着」や「部活動と勉強の両立」「総合的な学習」などについて提言をいただいていたが、今回は「地域連携」または「地域貢献」というテーマで考えている。本校の学校運営室長の堀から報告し、質疑の上ご提言をいただきたい。

報告・発表(堀)・・・別紙資料参照

加治佐さん 開校5年が経ち、基礎固めが終わった学校に対する、次のミッションとしては正しい方向であることは確か。ただ、大阪府の政策として、府立高校が地域連携する際のバックアップが現在どの程度あるのか。

宮坂さん 地域連携を通じて「行きたい学校へ」というのは、大阪の方針どおり。さらに槻の木高校は「行って良かった学校」＝「力をつけてくれる学校」へ向かっており、評価できる。槻の木が、このような中身づくりを大阪府のなかでも先行することは、大きな意味がある。

芝井さん 大阪府は現在、進学を重点に考える中高一貫の公立学校をつくることも視

野に入れていることも聞く。一方では、キャリア教育をすすめたい意向があるようだ。

宮坂さん 仮に、公立：私学＝7：3 のしぼりがなくなることになると、槻の木には少なからず影響がある。現在の槻の木の方向性は、府の政策に大きく連動する。

芝井さん 地域はどこ？という問いかけには、生徒が通う地域を地域と考えていい。高槻で開校する関大の高校は、滋賀から兵庫までを考えている。地域連携は、学校広報だけを目的にすると、教員の意志一致は難しい。地域貢献と生徒の育成の旗の下、行う必要がある。

加治佐さん 地域連携は一般的に間違いなくいいことだが、問題はその取り組みが、どのように映るか？ということ。つまり「学校のため」か「地域のため」か。地域に何か利がある取り組みができるか。

立石さん 高槻にある高校に対する高槻の思いは、中学校やその教員ま強いものがある。勉強と生活で支持される学校にしてほしい。子どもたちの憧れの対象となれば。例えば、芥川の和太鼓は、地域にとって憧れに近い支持がある。

長井さん 現在の高槻北高校を支えていただいている地域は、大変結束が強く、学校の運営において、なくてはならない存在と考えている。槻の木もまずは、小さい地域を地域と考え、スタートし現在に至っている。現在は、高槻北高校で、地域貢献を目標に、その取っかかりを考えている。

芝井さん 大学生くらいになると、それぞれが地域に対して何ができるか考えることができるのだが、槻の木でもできないだろうか。例えば、まず生徒にある程度の予算を与え、何かできないか考えさせることはどうか。

加治佐さん 大阪には全学校に地域連携を推すための予算措置があるのかどうか。

宮坂さん 大きな額では、「ない」と思われます。

入江さん 小中学校の立場からいえば、高校の地域連携は大変ありがたいこと。例えば、「出前」という形はどうか。ただ、どこまでの地域をくくるかについては、中学校サイドも選択制になると難しくなる。

柿原さん 30年前に高槻に帰ってきたとき、花時計を作ろうと思い立った。イギリスのエジンバラの花時計に感動をしたことがあったので、さっそく連絡し意向を伝えると、積極的に連携・協力もらった。現在の花時計は、青陵高校がお世話してくれている。地域連携は待っていてもだめで、こちらから仕掛けていく姿勢が大切。学校側から地域へ、様々な仕掛けを是非するべき。考えれば、他ではできない面白い仕掛けができるはず。

- 芝井さん 仕掛けは、コーディネートする人が問題。
- 竹川さん 地域連携には2つの観点がある。一つは「学校広報」としての連携。もう一つは、子どもの自己実現の場としての連携があると思っている。継続性を考えると二つめの観点は大切。また、槻の木単位制を生かして、地域貢献が単位認定の方向が考えられないか。子どもの活躍舞台が地域として考えたい。
- 立石さん 槻の木がこれまでやってこられた学力面での成果をあげるだけでなく、さらに地域連携となると大変だと思うが、やれば必ず得るものがある。
- 芝井さん 動きの中で見えることがよくある。前向きにフットワークよくやりながら、うまくきっかけを拾えるかどうか。小さい取り組みに見えても、あつと驚くことにつながる可能性があるのが、地域連携である。
- 柿原さん 子どもが喜んで学べる場の提供は、是非考えていただきたいし、地元も協力する。
- 入江さん 夏に、槻の木の周りにひまわりが咲く。これだけでも、立派な地域貢献。ただ、地域貢献の結果が、いろいろな意味で学力につながるのかどうかは、わからない。中学校の立場から言えば、「行きたい学校」になればなるほど、「行きにくい学校」になる（笑）という自己矛盾がおこる。槻の木高校には子どもたちの憧れの学校になっていただき、進路の目標にさせていきたい。
- 松本校長 我々は、常から視野が狭くならないよう注意する必要がある。地域連携は、学力向上と規範意識という前提があってこそ、と考えているが、さらに飛躍するには必要なこと。本日のご提言は大変ありがたく、今後の学校に大きなものとなるだろう。お忙しい中、ご熱心なご議論本当にありがとうございました。

#### ■事務連絡

---

- 司会（秋元） 次回3回目は、3月14日（土）16：00 を予定しております。どうぞよろしくお願い致します。